

令和6年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立合川小学校

I めざす学校像

学校教育目標『豊かな人間性とたくましい実践力をもった児童の育成』

めざす学校像

- ・確かな学力の育成をめざし、日々の学習を大切にする学校
- ・子ども同士が繋がり合い、優しさと笑顔あふれる学校
- ・地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校

めざす子ども像

- ・自ら学び豊かに表現しようとする子
- ・心豊かで思いやりのある子
- ・心身ともにたくましい子

めざす教師像

- ・子どもにより添い、共感できる教師
- ・指導力を高めるため、自己研鑽に努める教師
- ・豊かな人間性をもち、円滑な人間関係が築ける教師
- ・教育に情熱と使命感をもつ教師

II 現状と課題

- 1 昨年度の児童アンケートにおいて、「学校は楽しいですか」に93%、「授業の内容はよくわかりますか」に93%の児童が肯定的に答えている。アンケート結果が90%以上を保っていることは、学習活動全般に対する児童の意欲が高く、本校のわかる授業をめざした授業改善や、生活面における指導が一定の成果を上げているものと捉えている。
- 2 家庭学習に関する問い「『15分×学年』の時間、家で勉強していますか」については、「はい」「どちらかというとはい」と答えた児童は72%であり、経年変化で見ると、毎年下がり続けている。また、家庭学習が定着している児童と定着していない児童との差が大きいことが課題である。
- 3 本校の特色である外国語教育については「英語の授業や活動は楽しいですか」に肯定的な回答をした児童は87%であり、前年度の96%を大きく下回った。昨年度より内容を充実させ回数も増やしてきているが、児童の意欲向上に繋がっていないことが課題である。また、低学年が英語に触れる機会が少ないことも課題として挙げられる。英語に触れる時間やコミュニケーションを図る機会を充実させていく。
- 4 新たな不登校を生まない取組として、不登校、不登校傾向の児童について、教職員間で情報共有を行い、共通理解を図るとともに教職員全体で対応を行った。また、ケース会議、支援会議を開催し、日々の連絡を含め保護者との連携を密に行ってきた。
- 5 本校の経年的な課題として、自己肯定感の低さが挙げられる。「自分にはよいところがあると思うか」という問いに対して、肯定的な回答が年々下がり続けている。令和5年度は、肯定的回答が71%であり、ここ数年間でいちばん低い結果となった。
- 6 令和5年度は、教職員の月平均労働時間が37.6時間であり、月45時間超時間外労働者が、述べ25人であった。今年度も引き続き、教職員の業務の見直しや意識改革、時間割等の見直し等を行い、時間外労働時間の縮減を図っていく。

III 経営方針

- 1 確かな学力を育成する学校づくり
- 2 豊かなかかわりを育み、豊かな心を育てる学校づくり
- 3 健やかな心と体を育む学校づくり
- 4 楽しく安心して学べる学校づくり
- 5 地域や保護者とともにある学校づくり

IV 具体的な行動計画

[確かな学力を育成する学校づくり]

- 1 わかる授業をめざした指導方法の工夫・改善に取り組む。
 - ・全担任が研究授業を実施し、個々の授業力向上を図る。児童が自分の考えや思いを表現し、問いをもとに対話を通して学びを深めていけるような授業改善を行っていく。
 - ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析を行い、課題を学校全体で共有し、県や市のワークシートを活用するなど、課題改善に向けた取組を行う。
 - ・特別な支援が必要な児童の個に応じた教育や、外国人児童の日本語指導を推進する。
- 2 ICT 機器を活用した授業を日常的に実施し、効果的な指導を推進する。また、4年生以上は日常的な端末の持ち帰りを行い、家庭学習においても ICT 機器の積極的な活用を行う。
- 3 学校と家庭が連携し、家庭学習（学年×15分）の習慣化と定着を図る。
- 4 外国人児童生徒支援員を有効的に活用し、1年生から3年生までを対象に、英語に慣れ親しむ時間を設け、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

[豊かな心とからだを育む学校づくり]

- 1 研修部会、生指部会と連携し、児童の非認知能力の向上を図る。児童が主体的に活動する場や自他の違いやよさを認められる場を設定する。また、日常的な授業や学級活動を通して「自己肯定感」や「やり抜く力」、「自制心」、「社会性」を高める。
- 2 人権教育を基盤にした集団づくりに取り組むとともに、児童の問題を共有し全教職員で統一した指導にあたる。また、各学年で、特別支援学級籍への理解を深める授業を行う。
- 3 多文化共生、国際理解の授業を通して、外国につながる児童への理解を図る。

[健やかな心とからだを育む学校づくり]

- 1 全学年で体力調査を実施し、結果を分析するとともに、本校児童の苦手種目に対して効果的な取組を、年間を通して実施する。
- 2 食育の授業を通して望ましい食習慣を身に付け、自ら健康管理ができる児童を育てる。
- 3 基本的な生活習慣を身に付け、健康で心豊かな生活を営むことができる児童を育てる。

[子どもが楽しく安心して学べる学校づくり]

- 1 長期欠席児童への対応を継続的に行う。家庭と連携し児童に寄り添った支援を行うとともに、ケース会議や支援会議を開催し、関係機関とも連携した対応を行う。
- 2 教職員間で情報共有を徹底し、いじめや問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努める。
- 3 PTAや安全安心ボランティアなどと連携し、登下校時の児童の安全確保に努める。
- 4 防災訓練・安全教室を実施し、自分の命は自分で守れる児童を育てる。
- 5 教職員の時間外労働時間縮減に取り組み、働きやすい職場づくりをめざす。

【進捗管理指標】	一人当たりの月平均時間外労働	35時間以下
	年360時間を超える時間外労働者数	0人
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	20人
	一人当たりの年間休暇取得日数	15日以上
【統一的な取組】	設定した日の定時に退校できた職員の割合	60%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	50%以上

[地域や保護者とともにある学校づくり]

- 1 学校運営協議会での協議を大切にし、地域とともにある学校づくりを進める。
- 2 学校だより・学年通信、ホームページ、メール配信などを活用し、情報発信に努める。
- 3 学校自己評価、学校関係者評価を実施し、授業や教育活動の改善につなげる。
- 4 天栄中学校区の小中学校と連携した取組を進める。